

第33回環境保全・公害防止研究発表会の概要

新潟県保健環境科学研究所

環境省、全国環境研協議会および新潟県の三者共催による第33回環境保全・公害防止研究発表会が、平成18年11月13日(月)および14日(火)に、新潟市にある国際会議場「朱鷺メッセ」で開催されました。

今回の研究発表の演題募集については、全国環境研協議会の会員だけでなく、全国の環境研究機関を有する自治体へも声をかけさせていただきました。また、発表分野もこれまでのように大気、水質等限定せずに募集をし、応募演題の内容を基に9分野に分類して開催しました。

第1日目は117名の参加のもと、主催者のあいさつ後、特別講演および地球環境セッションの研究発表が行われ、第2日目は122名の参加のもと、2会場に分かれて8セッションの研究発表が

行われ延べ239名の参加があり、成功裡に終了しました。

1. 開 会

開会に当たり、今回の第33回発表会会長である新潟県保健環境科学研究所の山本進一所長から開催事務局長として、参加者への来県の歓迎と感謝を主旨としたあいさつがありました。

続いて、主催者三者からそれぞれあいさつがあり、その内容は次のとおりでした。

2. 主催者あいさつ

○環境省のあいさつ

(環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室長
室石 泰弘 氏)



環境省 室石 泰弘 環境研究技術室長



全国環境研協議会 長谷川 猛 会長



新潟県 棚橋 進 県民生活・環境部長

第 33 回環境保全・公害防止研究発表会日程表

平成18年 11月13日(月)	○開会(13:30~13:45) 開会のあいさつ 新潟県保健環境科学研究所長 山本 進一 主催者あいさつ 環境省環境研究技術室長 室石 泰弘 全国環境研協議会会長 長谷川 猛 新潟県県民生活・環境部長 棚橋 進 ○特別講演(13:50~15:00) 演 題 「アスベスト飛散防止対策」 講 師 松井 佳巳(環境省水・大気環境局大気環境課長) 座 長 長谷川 猛(全国環境研協議会会長(東京都環境科学研究所長)) ○研究発表(15:10~16:50) ○地 球 環 境	
平成18年 11月14日(火)	研 究 発 表	
	A 会 場	B 会 場
	○大 気(9:30~10:50) ○化 学 物 質(11:00~12:20) (昼食・休憩) ○生 活 環 境(13:30~14:50) ○ダイオキシン(15:00~16:20)	○水 質(9:30~10:50) ○地 下 水(11:00~12:20) (昼食・休憩) ○廃 棄 物(13:30~14:50) ○土 壤(15:00~16:20)
	○閉会 A 会場(16:30~16:40) 閉会のあいさつ 環境省環境研究技術室 室長補佐 篠木 恒成 次期開催県あいさつ 大分県衛生環境研究センター所長 堤 平治	

本日は御多忙の中、本研究発表会にお集まりいただき誠にありがとうございます。本研究発表会は、地方公共団体の環境研究所の職員の皆様による環境保全・公害防止研究の成果を発表する場を設けるとともに、国と地方公共団体あるいは地方公共団体相互の連携を図ることも目的としており、今回で33回目であります。このように長きにわたり開催しているのも、ひとえに皆様の御尽力の賜物であり、重ねて御礼申し上げます。

さて、最近地球温暖化をはじめとするさまざまな環境問題を解決するという意味におきまして、つい最近、環境省としても新たな「環境基本計画」を策定しておりますが、その中の環境技術の項目

に書いてありますように、世の中の先行きが不透明になっている中において、環境技術がその重要な鍵となり、日本としても「環境技術立国」をめざすことが必要でございます。こうした技術力と、私達の意識を変えてライフスタイルを変える元となるわれわれの「心」を車の両輪として、環境をよりよくしていくことが今後の日本にとって必要であろうということで、「環境と経済の好循環」という言い方をしておりますが、持続可能な社会を実現させていきたいというふうに考えております。

科学技術ということでまいりますと、政府全体としては、本年3月に「第3期科学技術基本計画」

が閣議決定されましたが、その中でも地域作りが重要な課題とされており、地域の大学を含めた産学官の連携をこれからも図るべきとしておりますし、地方の環境研究所をより一層活用することをぜひ環境省としても進めていきたいと思っていますところでは。

環境省としまして、本年3月に中央環境審議会から「環境研究・環境技術開発の推進戦略」の答申を得ました。今年度中に環境省の実施方針を打ち出し、今後5年程度ですが、その推進戦略に則って環境研究技術を計画的に進めていくということとしています。その際、答申の中にも地方環境研究所が重要な役割をするという位置づけが書かれており、私どもとしてもその線に沿って今後進めていきたいと考えております。

国の方では、いろいろと地方を活用するあるいは地方の皆様方の力を引き出していくという形で予算の中でも地方枠を設けているところですが、競争的研究資金としては、環境技術開発等推進費や公害防止等試験研究費の中に、地域密着型の枠を設けております。来年度の予算要求では、地域の産学官連携事業、その中の官として地方環境研究所の御活躍を期待しています。さらに、環境研究技術を普及していくための実証モデル事業では、すでに4年の実績がありますが、いつくかの地方環境研究所に参加をいただいているところであり、継続事業であることから来年度以降も地方環境研究所の参加をお願いしたいと考えています。

最後になりましたが、本研究発表会は非常に盛りだくさんのメニュー、演目がありますが、これらの成果に触れるだけでなく、地方公共団体の環境研究所の交流の場としてぜひ活用していただき、全国の環境研究が盛んになることを祈念しまして、私のあいさつとさせていただきます。

○全国環境研協議会のあいさつ

(会長 長谷川 猛 氏(東京都環境科学研究所長))

最初に、本発表会の開催を担当いたしました、新潟県保健環境科学研究所の皆様をはじめとする関係者の皆様方に、全国環境研協議会の会長として厚く感謝をいたします。

この発表会は、全国の地方環境研究所の研究者の皆様が一堂に会し、日頃の調査・研究成果の発

表とこれに対する質疑応答などを通し、情報交換の活発化など相互の連携の強化や知識および技術の向上を図ることなどを目的としています。

現在、地方環境研究所は、地方の行財政改革が進む中でいかにして効率的・効果的な調査研究体制を構築していくか、地球環境問題など新しい課題にどう取り組んでいくかという共通の課題を抱えています。また、地方環境研究所の多くは産業公害問題が盛んだった1970年代に設立された所が多く、当時採用された団塊の世代の研究者が退職の時代を迎え、どう技術力を継承していくかという大きな問題も存在します。

地球環境問題などで、よく地球規模で考え地域で行動するという言葉が使われていますが、この言葉に象徴されるように、地方環境研究所の果たしてきた役割の重要性は変わることはなく、地域をフィールドとする調査研究の必要性は、今後ますます増大してくると思っています。

しかし、それを担うべき地方環境研究所のあり方や運営方法は、先ほど述べた課題の解決を図っていく中で大きく変わっていくのではと個人的には思っています。ただ、研究者個々にとっては、知識や技術的能力があれば逆に変革はむしろチャンスなので、産学官連携の共同研究に活用できるマネジメント能力や情報収集能力など必要な能力開発を含め能力の向上に努めることが重要と考えます。

本日の発表会が、技術能力の向上という役割を果たす場となること、および地方環境研究所の関係者以外の皆様方にとっても有意義なものとなることを祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

○新潟県のあいさつ

(県民生活・環境部長 棚橋 進 氏)

本日は第33回環境保全・公害防止研究発表会を新潟で開催でき、全国から多くの研究者の皆様に参加いただいたことに対し、開催県として心から歓迎申し上げます。

全国環境研協議会が環境省の指導のもとで本研究発表会を主催し、幅広い環境問題について数多くの調査・研究の業績をあげ、環境保全対策の推進に御尽力いただいておりますことに心からお喜び申し上げます。

さて、今日の産業経済活動をみますと、自然の持つ復元力をはるかに超える環境への負荷を発生させ、さまざまな環境問題が生じていること、さらには、国境を越える広域的な環境問題へと拡大しているのが実態かと思えます。

環境科学の研究におきましても、これまでの地域環境に根ざしたさまざまな調査・研究に加え、温暖化対策や資源の有効利用、新しいエネルギーの開発などのいろいろな形の新たな研究テーマが浮上してきております。これまでの環境科学をベースに高度な情報処理技術や幅広い見識が必要となってきており、今後ますます関係する研究機関との共同研究や交流が重要となってきました。

新潟県でも東アジア酸性雨モニタリングネットワークの研究機関である酸性雨研究センターを誘致し、国境を越えた広域的な環境問題への取り組みを支援してきました。また、国立環境研究所や地元の新潟大学との共同研究に取り組み、地域環境問題と合わせ、国境を越えた広域的な環境問題に対しても取り組みを進めてきております。

今回の発表会では、環境省の松井課長様に特別講演をお引き受けいただき誠に感謝しております。2日間にわたる研究発表会において研究情報をいろいろな角度から交換し合い、皆様の更なる調査研究活動につながっていくことを期待したいと思います。

終わりに、全国環境研究協議会のますますの御発展と本日御参集の皆様の御活躍を祈念いたしまして、お祝いと歓迎の言葉といたします。

3. 特別講演

環境省水・大気環境局大気環境課長松井佳巳氏により「アスベスト飛散防止対策」について特別講演が行われました。

4. 研究発表

2日間にわたり、36名の方から以下のとおり研究発表が行われました。

(1) 第1日目(平成18年11月13日)

○地球環境 15:10~16:50

- 座長：英保 次郎(兵庫県立健康環境科学研究所)
- 1W1-1 岩手県における市町村別 CO₂排出量の推計と削減目標

- 工藤 浩ほか(岩手県環境保健研究センター)
- 1W1-2 アシッドショックに関する融雪水調査
菅原 宏ほか(山形県環境科学研究所)
- 1W1-3 大阪市内溜池における堆積試料中の環境汚染物質の解析
森脇 洋ほか(大阪市立環境科学研究所)
- 1W1-4 河北潟のプランクトンと水質
橋田 哲郎ほか(石川県保健環境センター)

(2) 第2日目(平成18年11月14日 A 会場)

○大気 9:30~10:50

- 座長：工藤 浩(岩手県環境保健研究センター)
- 2A1-1 大気中浮遊粒子状物質(SPM)の秤量精度の検討
門田 実ほか(岡山県環境保健センター)
- 2A1-2 宮城県におけるPM_{2.5}の調査結果について
木戸 一博ほか(宮城県保健環境センター)
- 2A1-3 2006年初夏におけるSPMの高濃度解析
山田 大介ほか(川崎市公害研究所)
- 2A1-4 群馬県における大気粉塵中金属元素の動態解析—流跡線解析と多変量解析を用いた寄与の推定—
飯島 明宏ほか(群馬県衛生環境研究所)

○化学物質 11:00~12:20

- 座長：宇都宮 高栄(福井県衛生環境研究センター)
- 2A2-1 環境大気中の水銀及びその化合物の昼夜別測定結果について
中桐 基晴ほか(岡山県環境保健センター)
- 2A2-2 南西諸島に生息する水棲生物中の有害化学物質調査
宮城 俊彦ほか(沖縄県衛生環境研究所)
- 2A2-3 沖縄県における降水中の過塩素酸イオンについて
嘉手納 恒ほか(沖縄県衛生環境研究所)
- 2A2-4 質量分析計付き高速液体クロマトグラフを用いたゴルフ場排水中のイミノクタジン3酢酸塩の分析法
中川 和子ほか(京都市衛生公害研究所)

○生活環境 13:30~14:50

- 座長：村瀬 秀也(岐阜県保健環境研究所)
- 2A3-1 嗅覚測定における欧州規格法と三点比較式臭袋法の比較について
天野 冴子ほか(東京都環境科学研究所)

2A3-2 畜産系コンポスト化処理時の臭気低減化に関する研究(Ⅲ)* 一残留臭気の高減化(二次処理)に関する研究一

串田 光祥ほか(香川県環境保健研究センター)

*都合により発表中止

2A3-3 航空機騒音の戦略的低減対策

石橋 雅之ほか(千葉県環境研究センター)

2A3-4 家畜排せつ物堆肥センターを活用した生ごみ混合堆肥化事業の経済評価

竹野 大志ほか(長崎県衛生公害研究所)

○ダイオキシン 15:00~16:20

座長:宮城 俊彦(沖縄県衛生環境研究所)

2A4-1 アスベスト測定に係る諸問題

英保 次郎ほか(兵庫県立健康環境科学研究所)

2A4-2 水生生物を用いた河川環境におけるダイオキシン類発生源寄与率の推定

村瀬 秀也ほか(岐阜県保健環境研究所)

2A4-3 JIS II形装置を用いた排ガス中のダイオキシン類測定方法に関する検討

鈴木 貴博ほか(新潟県保健環境科学研究所)

2A4-4 異なるダイオキシン分析カラム間における異性体測定値の推計方法とその検討

山口 晃ほか(新潟県保健環境科学研究所)

(3) 第2日目(平成18年11月14日 B会場)

○水 質 9:30~10:50

座長:渡部 正弘(宮城県保健環境センター)

2B1-1 伊勢湾流域河川の解析手法に関する研究

服部 嘉治(愛知県環境調査センター)

2B1-2 統計的手法(多変量解析)による公共用水域の水質の評価法の検討—大和川の水質の特性と多変量解析による評価—

松本 光弘ほか(奈良県保健環境研究センター)

2B1-3 山林集水域からの汚濁物質の流出について

梅本 諭ほか(兵庫県立健康環境科学研究所)

2B1-4 琵琶湖南湖赤野井湾周辺における水質の長期変化について

佐貫 典子ほか(滋賀県琵琶湖・環境科学センター)

○地 下 水 11:00~12:20

座長:松本 光弘(奈良県保健環境研究センター)

2B2-1 隔離水界を用いた湖沼等水質浄化技術の評価

田中 仁志ほか(埼玉県環境科学国際センター)

2B2-2 伊豆沼・内沼における水質改善に関する研究

渡部 正弘ほか(宮城県保健環境センター)

2B2-3 茶畑からの水質汚濁負荷の評価とその環境保全対策について

瀧本 俊晴ほか(静岡県環境衛生科学研究所)

2B2-4 石川県の地下水汚染の現状及びその浄化対策について

岡田 真規子ほか(石川県保健環境センター)

○廃 棄 物 13:30~14:50

座長:小倉 光夫(神奈川県環境科学センター)

2B3-1 木質系廃棄物の有効利用に関する研究

武田 伸也ほか(愛媛県立衛生環境研究所)

2B3-2 海面埋立処分場を想定した硫化水素除去実験

肥塚 隆男ほか(北九州市環境科学研究所)

2B3-3 天然素材を用いる低コスト水処理の試み

宇都宮 高栄ほか(福井県衛生環境研究センター)

2B3-4 最終処分場浸出水・処理水のバイオアッセイによる毒性評価

堀内 孝信ほか(長野県環境保全研究所)

○土 壤 15:00~16:20

座長:森脇 洋(大阪市立環境科学研究所)

2B4-1 ICP-MSを用いた金属分析における酸の影響について

藤原 亮ほか(茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

2B4-2 土壌・底質等環境試料中のふっ素分析法の検討

小倉 光夫(神奈川県環境科学センター)

2B4-3 重金属類の電気化学特性を利用したオンサイト土壌・地下水汚染評価手法の開発

石山 高ほか(埼玉県環境科学国際センター)

2B4-4 共通試料による土壌含有量試験の精度管理調査について

結城 修ほか(新潟県保健環境科学研究所)

5. 閉 会

閉会に当たり主催者を代表して環境省から閉会のあいさつが、また、次期開催県としてのあいさつがありました。その内容は、次のとおりでした。

○主催者の閉会あいさつ

(環境総合政策局総務課環境研究技術室室長補佐
篠木 恒成 氏)

2日間にわたる研究発表会では、地方公共団体の環境研究所の皆様から各分野における最新の調査・研究の成果が発表され、実りある議論が行われたことと思います。これもひとえに、各発表者の日頃からの御努力と座長の皆様方の労の賜物と存じます。また、昨日の特別講演では、昨年の6月に大きな社会問題となりましたアスベストの健康被害と国の対策について、最新の知見をうかがうことができました。国および地方公共団体の環境保全に関する研究の総合的な推進を図るという本研究発表会の目的は、十分達成されたのではないかと考えております。改めまして、研究の最前線で活躍される皆様の日頃の御努力に対し、心から敬意を表しますとともに、本発表会の開催準備に御尽力いただきました新潟県の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

環境省といたしましては、「第3期科学技術基本計画」および中環審答申である「環境研究・環境技術開発の推進戦略」の中で示されるとおり、地域における環境研究・技術開発の推進が、これら施策上の重要な柱の一つであると考えておりま

す。地方公共団体の環境研究所におかれましても、地域の環境行政を支える科学的・技術的な基盤組織として一層の体制整備等に努めていただき、その得意分野に配慮しつつ人材を活用して、地域に密着した環境研究を率先して展開されることが重要と考えております。

その意味でも、地方公共団体の環境研究所の研究者が一堂に会する貴重な機会であるこの研究発表会を、今後一層充実させていきたいと考えておりますので、次期開催県である大分県および全国環境研協議会の関係者の皆様には、引き続き御協力くださいますようお願い申し上げます。

○次期開催県のあいさつ

(大分県衛生環境研究センター所長 堤 平治 氏)

第34回環境保全・公害防止研究発表会を受けさせていただきます。現在、全国的に行財政改革が進行しており、団塊の世代の退職の時期に当たることもあり、当県もセンターのあり方の検討会を今年4月に立ち上げ、10月に一応の目途をつけました。このようなたいへん厳しい時期になっておりますが、当センターとしてもこうした研究発表会といった調査研究機能の充実を図っていきたいと考えております。ぜひとも来年度は、多数の皆様のお出席をいただけるようお願いいたします。